

近代の国づくり（1867～1900） その15

《京急電鉄のルーツ》

多摩川を横断する最下流の私鉄といえば、京急です。この京急のルーツは、大師電気鉄道でした。その経緯を見てみましょう。

1899年（明治32）、私鉄の大師電気鉄道が、お大師さんへの観光遊覧を目的に、川崎―大師間に川崎大師線2.2kmを敷設し、電車を走らせます。おもしろいのは、鉄道敷設に当り、人力車組合からクレームが付いて、電気鉄道の始発駅をJR川崎駅と直結できず、六郷橋近くに川崎駅を作りました。JR川崎駅と電気鉄道川崎駅間の移動で人力車が活躍できるようにすることで決着したのですね。

この頃には、ローカルな鉄道が敷設されるようになり、そこに欧米で電力を動力とする電車という技術革新が起こり、私鉄電気鉄道の歴史が始まるのです。大師電気鉄道は、電気鉄道としては、京都、名古屋（注1）に次いで開業したものでした。（注2）

1899年（明治32）には、社名を京浜電気鉄道と改称し、六郷橋―品川橋間と、大森支線の敷設が許可となります。1901年（明治34）には、蒲田―羽田のルートが許可となり、翌1902年（明治35）、完成。それは、日露戦争2年前のことでした。

なお、幹線鉄道はというと、日露戦争後の1906年（明治39）に国有化されます。結果からすれば、PFIで鉄道が整備されたということになります。国有鉄道が、再度民営化されるのは、1987年（昭和62）のことです。

注1：京都電気鉄道は、琵琶湖疏水事業で誕生した蹴上発電所の電力を利用して、1895年（明治28）開業。京都市交通局の前身。名古屋電気鉄道は、1898年（明治31）に開業。名古屋鉄道（株）と名古屋市交通局の前身。

注2：関東私鉄で、営業開始の古い順では、①西部（川越鉄道、汽車：明治27）、②京急（明治32）、③東武（明治32）、④東急（玉電：明治40）、⑤京成（明治45）、⑥京王（大正2）、⑦小田急（昭和2）。

写真は、①京急大師線を走る京急電車（細見撮影）、②大師電気鉄道（京急HPより）、③京
 浜電気鉄道の初期路線（「京浜電鉄」 宮田憲誠著より）

①



②



③

【川崎大師→穴守稲荷→池上本門寺ルート】

